

第13回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第13回環境保全協議会では、「工事の進捗状況について報告」「前回までの協議会における指導事項と対応」「平成26年度環境影響調査の報告」「今後の環境調査」について詳細を説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。

記

1 日 時 平成27年3月18日（水） 13:30～15:30

2 場 所 最上総合支庁5階講堂

3 出席者 13名（全員出席）

原委員長、伊藤一雄委員、伊藤準悦委員、今井委員、梅田委員、菊池委員、柴田委員、鈴木委員、高橋委員、野口委員、柳原委員、矢野委員、横倉委員

4 審議の結果

（1） 各委員からの主な御意見（要旨）

- ・梅田委員 【濁度観測】
 - ・今後も継続的に調査を行い流量と濁度の関係を整理しながら状況をモニタリングするとよい。
- ・今井委員 【猛禽類調査】
 - ・本事業が要因で、ここに生息する希少猛禽類に影響を及ぼしたとは考えにくい。
 - ・猛禽類については、繁殖成功率で影響の有無も見えてくるので、繁殖の状況を一覧表で整理するとよい。
 【ヤマセミ調査】
 - ・ヤマセミのつがい数がいくつなのかということが重要であるが、調査日が2日間ではなかなか把握できないと思われる。
- ・横倉委員 【イチゴナミシャク調査】
 - ・イチゴナミシャクは非常に貴重な種であり、今後も調査を継続することを望む。
 【昆虫】
 - ・新たな昆虫のレッドリストが出来たら、また新たに重要種が出てくるかもしれない。
- ・原委員長 【ナガミノツルケマン調査】
 - ・試験播種した3箇所は非常にうまくいっている部分があり、今後も調査を継続するとよい。
 【オオナンバンギセル調査】
 - ・オオナンバンギセルは残っている箇所の観察を続けるとよい。
 【植物調査】
 - ・山形のレッドデータブックが改定され前回より重要種が増えているのでチェックしてほしい。新たに藻類も加わっており川に関係するので、シャジクモについて生息の有無をチェックしてほしい。
- ・鈴木委員 【付着藻類調査】
 - ・調査を行った日がどういった時だったのか情報があるとよい。出水時期や水温も重要なファクターになるので記録した方がよい。
 - ・アユのはみ跡率について、上流ほどはみ跡率が低いというのは資源の量を表していると思う。概ねアユは海から上ってきて下の方から定着しながら上って行くので上流ほど少ない。ただ、漁協でも放流しているので兼ね合いをみながらということになる。

（2） 環境保全協議会委員長に対する意見書への対応について

平成26年8月1日に川那部浩也京都大学名誉教授ほか3名の方の連名で本協議会委員長あてに提出された「第12回最上小国川流域環境保全協議会資料」のうち、アユを中心とする調査内容に関する意見書への対応についても審議が行われましたが、山形県知事を被告として平成24年9月に提起された住民訴訟（最上小国川ダム工事公金支出差止等請求事件）の原告主張に当該意見書を論拠にしたと推察されるものがあり、訴訟の審理への影響が考えられることから、協議会としては、ご意見として承るものの、意見書に対し回答はしないことに決定しました。

【開催概況】

